

令和7年度(2025)
博士前期課程・博士後期課程
大学院工学研究科
入学試験要項

推薦選抜
(内部進学者対象)



福井工業大学
Fukui University of Technology

目 次

福井工業大学大学院工学研究科 アドミッション・ポリシー，組織	1
大学院教育課程，コースワークの概要	2
各専攻の人材の養成及び教育研究上の目的	3
令和7年度 福井工業大学大学院工学研究科 博士前期課程 推薦選抜入学試験要項	4
令和7年度 福井工業大学大学院工学研究科 博士後期課程 推薦選抜入学試験要項	6
入学手続（博士前期課程および博士後期課程 共通）	8
応用理工学専攻・社会システム学専攻のコースとその専門分野の概要	10
出願書類	

個人情報の取り扱いについて

本学では入試業務を遂行するにあたり、志願者より取得した個人情報（保護者等を含む）は、次の利用目的のみに使用し、細心の注意を払って管理いたします。

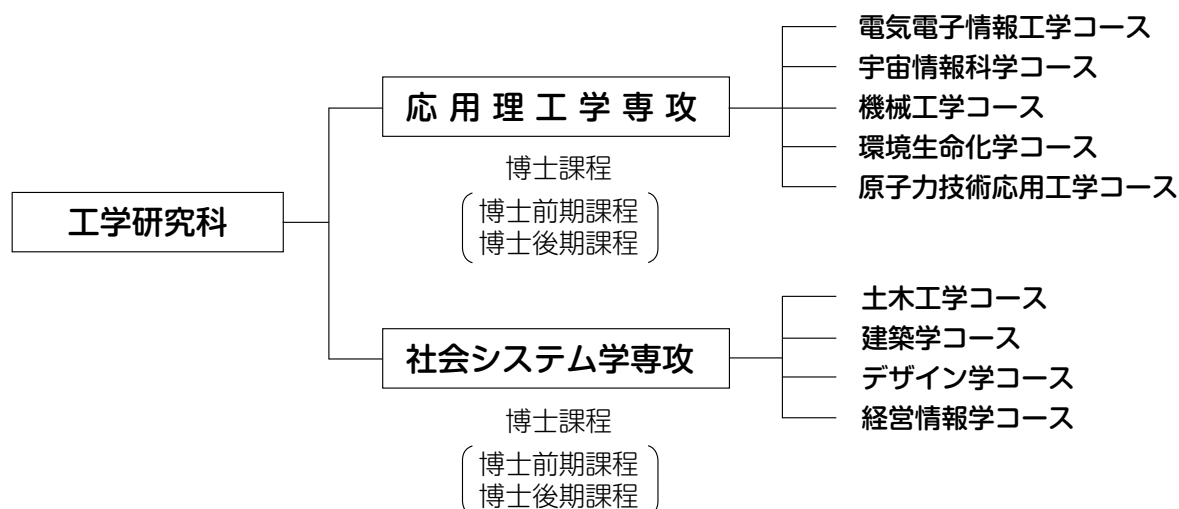
ただし、保護者等の情報については、選考資料には利用しません。

- 利用目的
1. 入学試験（志願から入学まで）における各種連絡および選抜のため。
 2. 入学後の修学関係・学籍関係・進路関係・学生生活関係およびその連絡のため。
 3. その他本学の教育・研究・学生支援に必要な業務のため。

福井工業大学大学院工学研究科 アドミッション・ポリシー

福井工業大学（以下、「本学」という。）大学院工学研究科（以下、「工学研究科」という。）は、応用理工学専攻と社会システム学専攻の2専攻で構成され、それぞれの専攻に博士前期課程（標準修業年限2年）と博士後期課程（同3年）からなる博士課程が置かれている。各専攻には複数のコースが設けられ、博士前期課程では主として高度専門職技術者の養成、博士後期課程では主として研究者の養成に重点を置いている。工学研究科では、学校法人金井学園の「建学の精神」に基づき、専攻・課程のディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）に定めた学修目標と人材育成を達成できる潜在的な能力を有した学生を求めて、コース毎にアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を定めている。工学研究科では、推薦選抜、一般選抜、社会人選抜など複数の方式の選抜を実施してアドミッション・ポリシーにふさわしい多様な人材を受け入れる。工学研究科の特色ある教育研究を通して、21世紀の知識基盤社会において国内外で活躍し、人類社会の福祉と発展に貢献することのできる人材を育成する。

福井工業大学大学院工学研究科 組織



大学院教育課程

博士前期課程

広い視野に立って精深な学識を修め、専門分野における理論と応用の研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うものとする。

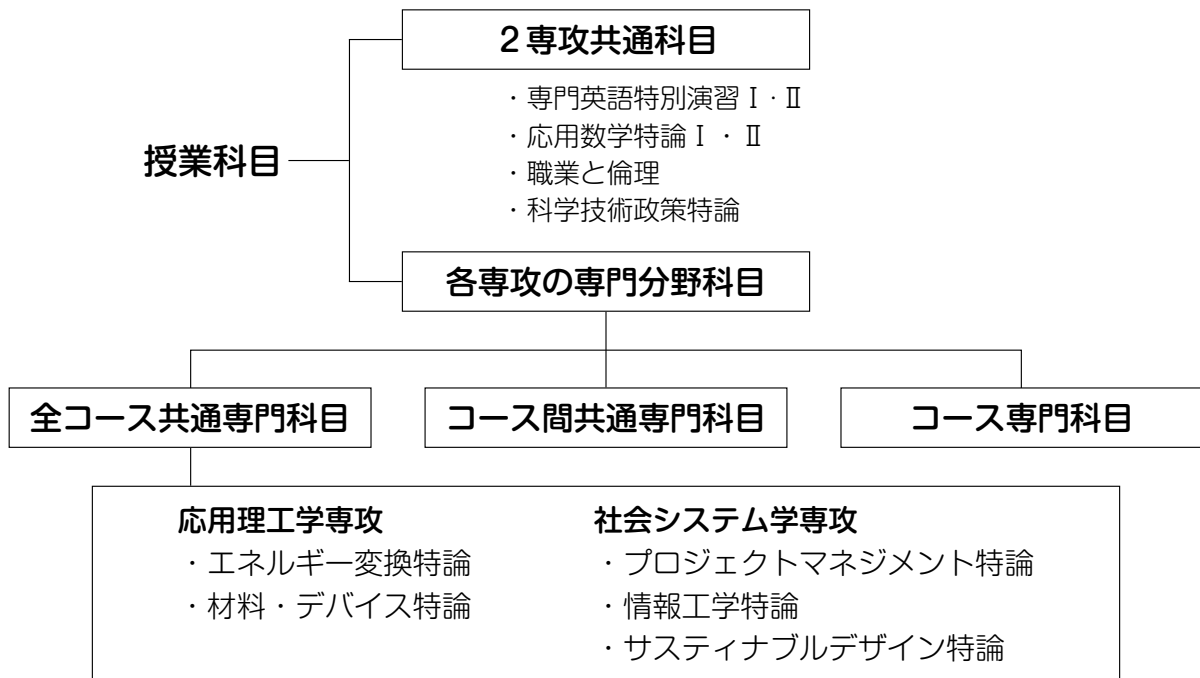
(大学院学則 第1章総則 第3条)

博士後期課程

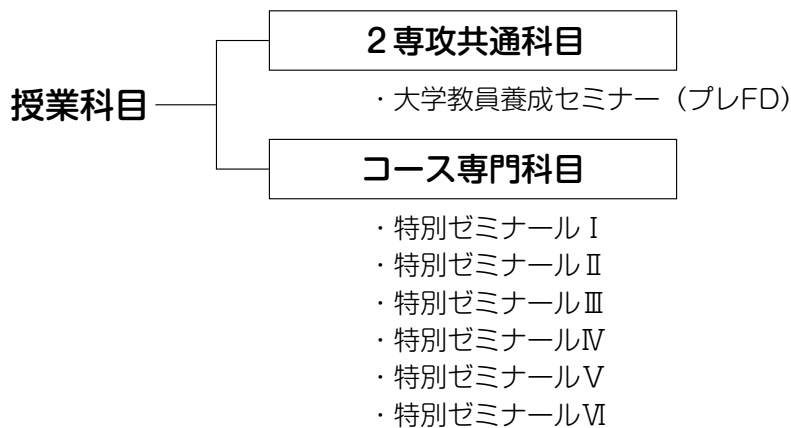
専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養うものとする。

(大学院学則 第1章総則 第4条)

博士前期課程コースワークの概要



博士後期課程コースワークの概要



各専攻の人材の養成及び教育研究上の目的

応用理工学専攻	博士前期課程	<p>電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、原子力技術応用工学の5コースを設置し、各コースの専門分野の教育並びに研究を行い、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成する。各コースの専門分野は、以下の通りである。</p> <p>(電気電子情報工学コース) 電力工学、電子材料・デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工学、人工知能</p> <p>(宇宙情報科学コース) 宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学</p> <p>(機械工学コース) 材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学</p> <p>(環境生命化学コース) 応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科学、生体工学</p> <p>(原子力技術応用工学コース) 原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学</p>
	博士後期課程	<p>電気電子情報工学、宇宙情報科学、機械工学、環境生命化学、原子力技術応用工学の5コースにおける専門分野の教育並びに研究を行い、基幹あるいは先端理工学分野における目覚ましい科学・技術の発展に対応できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する。</p>
社会システム学専攻	博士前期課程	<p>土木工学、建築学、デザイン学、経営情報学の4コースを設置し、各コースの専門分野の教育並びに研究を行い、広い視野と高度な専門知識・技術、新しい問題提起とその解決能力を備えた創造性豊かな人材を養成する。各コースの専門分野は、以下の通りである。</p> <p>(土木工学コース) 土木計画学、環境工学、地盤工学、構造工学、防災工学</p> <p>(建築学コース) 建築論・計画・設計、伝統木造建築、建築構造工学、建築環境・設備</p> <p>(デザイン学コース) 生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝達デザイン学</p> <p>(経営情報学コース) 経営学、政策科学、情報科学、データサイエンス</p>
	博士後期課程	<p>土木工学、建築学、デザイン学、経営情報学の4コースにおける専門分野の教育並びに研究を行い、建築や社会基盤の計画・調査・設計・施工・維持管理、デザインによる生活文化や生産・環境・情報の価値創造、プロジェクトマネジメント及び望ましい情報社会の構築に貢献できる専門知識と応用能力、研究能力を備えた人材を養成する。</p>

令和7年度 福井工業大学大学院工学研究科 博士前期課程 推薦選抜入学試験要項

1. 募集人員

専攻	コース	募集人員
応用理工学専攻	電気電子情報工学コース	推薦選抜・一般選抜 合わせて 17名
	宇宙情報科学コース	
	機械工学コース	
	環境生命化学コース	
	原子力技術応用工学コース	
社会システム学専攻	土木工学コース	推薦選抜・一般選抜 合わせて 8名
	建築学コース	
	デザイン学コース	
	経営情報学コース	

2. 推薦基準

- ①所属学科の主任教授の推薦があること。
- ②合格した場合には本学大学院に必ず入学すること。

<早期大学院入学(飛び級入学)>

大学院学則第20条第1項(10)の規定に従う。

3. 選抜方法

学力検査(口述試験)および学部の成績等を総合して選抜します。なお、デザイン学コース志願者は、口述試験のときに作品ポートフォリオを持参してください。

4. 試験日程

試験区分	出願期間(締切日消印有効)	試験日
I期	令和6年6月7日(金)～ 令和6年6月17日(月)	令和6年7月6日(土)
II期	令和6年12月9日(月)～ 令和7年1月9日(木)	令和7年1月25日(土)

5. 試験会場

福井工業大学 福井キャンパス(福井市学園3丁目6番1号)

6. 出願手続

(1) 出願書類

次の出願書類を、本学大学院所定の封筒に入れ、出願期間内に福井工業大学 入学センター 入試広報課に提出してください。

出願書類	摘 要
① 入学志願票	本学所定の用紙。 出願前3ヶ月以内に撮影した上半身、脱帽正面向き、縦4cm×横3cmの写真を貼付してください。
② 受験票・副票	本学所定の用紙。(本学の振込受付印が押印されたもの)
③ 推薦書	厳封した学科主任の推薦書。本学所定の用紙。
④ 卒業見込証明書	
⑤ 成績証明書	

(2) 入学検定料 25,000円

※本学出納窓口で納入し、受験票・副票に振込受付印を押印してもらってください。受験票は、その他の出願書類と一緒に提出してください。

7. 出願上の 注意事項

(1) 出願書類に不備がある場合は受理できないことがありますので、出願前に十分確認してください。

(2) 出願後の記載事項の変更はできません。

(3) 一旦提出された出願書類や入学検定料は返還しません。

(4) 受験および就学に際して、特別な配慮が必要となる障害がある場合は、出願前に福井工業大学 入学センター 入試広報課(フリーコール 0120-291-780)までご連絡ください。

※本学の入学試験において「障害がある」とは、「視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害および精神障害、発達障害等の障害があり、障害者手帳を有する、または、その他何らかの個別支援を要し、その旨を示す診断書等を有している状態」のことです。

(5) 入学決定後においても、提出書類の記載と相違する事実が発見された場合は入学を取り消すことがあります。

8. 受験上の 注意事項

(1) 試験日当日は、必ず受験票を携行してください。

(2) 携帯電話・スマートフォンおよびこれに類するものは、受験者控室に入る前にアラーム設定を解除し、電源を切ってかばん等にしまってください。また、これらを時計の代わりとして使用することはできません。

(3) 受験者控室では係員の指示に従ってください。

9. 合格発表

(1) 合格発表日

試験区分	合格発表日
I 期	令和6年7月23日(火)
II 期	令和7年2月5日(水)

(2) 合格発表方法

① 受験者全員に合否通知書を入学志願票に記載された住所の本人宛に簡易書留の速達で郵送します。なお、合否通知書は、合格発表日当日に発送しますので、地域により翌日以降の到着となります。

② 電話等による合否に関する問い合わせには応じられません。

③ 学内掲示は行いません。

10. 入学手続 締 切 日

試験区分	手続締切日(締切日消印有効)
I 期	令和6年11月22日(金)
II 期	令和7年2月14日(金)

※入学手続に関する詳細は8ページを参照してください。

令和7年度 福井工業大学大学院工学研究科 博士後期課程 推薦選抜入学試験要項

1. 募集人員

専攻	コース	募集人員
応用理工学専攻	電気電子情報工学コース	推薦選抜・一般選抜 合わせて 4名
	宇宙情報科学コース	
	機械工学コース	
	環境生命化学コース	
	原子力技術応用工学コース	
社会システム学専攻	土木工学コース	推薦選抜・一般選抜 合わせて 2名
	建築学コース	
	デザイン学コース	
	経営情報学コース	

2. 推薦基準

- ①所属専攻の主任教授の推薦があること。
- ②合格した場合には本学大学院に必ず入学すること。

3. 選抜方法

学力検査（口述試験）および博士前期課程（修士課程）の成績等を総合して選抜します。

4. 試験日程

出願期間（締切日消印有効）	試験日
令和6年12月9日（月）～ 令和7年1月9日（木）	令和7年1月25日（土）

5. 試験会場

福井工業大学 福井キャンパス（福井市学園3丁目6番1号）

6. 出願手続

(1) 出願書類

次の出願書類を、本学大学院所定の封筒に入れ、出願期間内に福井工業大学 入学センター 入試広報課に提出してください。

出願書類	摘 要
① 入学志願票	本学所定の用紙。 出願前3ヶ月以内に撮影した上半身、脱帽正面向き、縦4cm×横3cmの写真を貼付してください。
② 受験票・副票	本学所定の用紙。(本学の振込受付印が押印されたもの)
③ 推 薦 書	厳封した専攻主任教授の推薦書。 本学所定の用紙。
④ 博士前期課程 (修士課程)	修了証明書または修了見込証明書。
⑤ 成績証明書	

(2) 入学検定料 25,000円

※本学出納窓口で納入し、受験票・副票に振込受付印を押印してもらってください。受験票は、その他の出願書類と一緒に提出してください。

7. 出願上の 注意事項

(1) 出願書類に不備がある場合は受理できないことがありますので出願前に十分確認してください。

(2) 出願後の記載事項の変更はできません。

(3) 一旦提出された出願書類や入学検定料は返還しません。

(4) 受験および就学に際して、特別な配慮が必要となる障害がある場合は、出願前に福井工業大学 入学センター 入試広報課（フリーコール 0120-291-780）までご連絡ください。

※本学の入学試験において「障害がある」とは、「視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害および精神障害、発達障害等の障害があり、障害者手帳を有する、または、その他何らかの個別支援を要し、その旨を示す診断書等を有している状態」のことです。

(5) 入学決定後においても、提出書類の記載と相違する事実が発見された場合は入学を取り消すことがあります。

8. 受験上の 注意事項

(1) 試験日当日は、必ず受験票を携行してください。

(2) 携帯電話・スマートフォンおよびこれに類するものは、受験者控室に入る前にアラーム設定を解除し、電源を切ってかばん等にしまってください。また、これらを時計の代わりとして使用することはできません。

(3) 受験者控室では係員の指示に従ってください。

9. 合格発表

(1) 合格発表日

令和7年2月5日(水)

(2) 合格発表方法

① 受験者全員に合否通知書を入学志願票に記載された住所の本人宛に簡易書留の速達で郵送します。なお、合否通知書は、合格発表日当日に発送しますので、地域により翌日以降の到着となります。

② 電話等による合否に関する問い合わせには応じられません。

③ 学内掲示は行いません。

10. 入学手続 締 切 日

令和7年2月14日(金) (締切日消印有効)

※入学手続に関する詳細は8ページを参照してください。

入 学 手 続

(博士前期課程および博士後期課程 共通)

1. 入学手続方法

- (1) 合格者には合格通知書とともに「入学手続要項」を送付します。入学手続に関するすべての事項は入学手続要項に従って行ってください。
- (2) 入学手続を完了した者には、3月に入学許可書を送付します。

2. 入学手続上の注意事項

- (1) 入学決定後においても提出書類の記載と相違する事実が発見された場合は、入学を取り消すことがあります。
- (2) 必要な書類がすべてそろっていない場合は受付できないことがありますので、書類提出前に十分に確認してください。
- (3) 一旦提出された書類は返還しません。

3. 入学手続書類提出先

福井工業大学 入学センター 入試広報課

〒 910-8505 福井市学園3丁目6番1号 0120 - 291 - 780 (フリーコール)

4. 納 入 金

初年度納入金 (各専攻共通)

種 別 \ 納 期	前期 (入学手続時)	後期	年 額
授 業 料	320,000 円	320,000 円	640,000 円
設 備 充 実 費	85,000 円	85,000 円	170,000 円
実 験 実 習 費	20,000 円	20,000 円	40,000 円
厚 生 衛 生 費 (冷暖房費含む)	7,500 円	13,500 円	21,000 円
合 計	432,500 円	438,500 円	871,000 円

- ① 上記の納入金以外に、委託徴収金 (学生健康保険組合費、学生教育研究災害傷害保険料、学生証カード代等) として、博士前期課程で13,430円、博士後期課程で17,120円が入学手続時に必要となります。
- ② 委託徴収金は金額が変更となる場合があります。
- ③ 物価等の推移により次年度以降において学費を改定する場合があります。
- ④ 入学金は不要です。
- ⑤ 金融機関の窓口で10万円を超える現金での振込みを行う場合、振込みを行う人の本人確認書類が必要となります。

5. 大学院進学奨励奨学金

■博士前期課程 大学院博士前期課程の入学予定者で、本学での学習意欲を持つ者に対し、選考により、初年度納入金について学納金を減免する奨学金制度です。

奨学金概要	<p>【第1種】 本学学納金50%減免</p> <p>【第2種】 本学学納金と国立大学大学院授業料標準額の差額を減免</p> <p>〈第1種、第2種とも年度末に学業成績等による継続審査を行います。所属するコース主任の推薦を受けることができた場合、次年度も継続します。〉</p> <p>※委託徴収金は減免対象外です。</p>
	<p>選考結果</p> <p>大学院進学奨励奨学金に選考された方には、合格通知書に学費減免に関する通知を同封してお知らせします。なお、電話等による選考結果に関するお問い合わせにはお答えできません。</p>

参考		初年度減免額	
第1種	福井工業大学大学院 通常額	学納金（年額）	871,000円
	減免額	学納金（年額）	435,500円を減免
第2種	福井工業大学大学院 通常額	学納金（年額）	871,000円
	国立大学大学院 標準額	授業料（年額）	535,800円
	減免額	差額（年額）	335,200円を減免

■博士後期課程 大学院博士後期課程の入学予定者で、本学での学習意欲を持つ者に対し、選考により、初年度納入金について学納金を全額免除する奨学金制度です。

奨学金概要	<p>本学学納金100%免除</p> <p>〈学業成績等による継続審査を行います。研究指導教員の推薦を受けることができた場合、次年度も継続します。〉</p> <p>※委託徴収金は免除対象外です。</p>
	<p>選考結果</p> <p>大学院進学奨励奨学金に選考された方には、合格通知書に学費減免に関する通知を同封してお知らせします。なお、電話等による選考結果に関するお問い合わせにはお答えできません。</p>

その他、不明な点等がある場合は、下記までお問い合わせください。

〒910-8505 福井市学園3丁目6番1号 福井工業大学 入学センター 入試広報課
0120-291-780（フリーコール） E-mail kouhou@fukui-ut.ac.jp

応用理工学専攻・社会システム学専攻
コースとその専門分野の概要

電気電子情報工学コース

アドミッション・ポリシー

電気電子情報工学コースでは、電力工学、電子材料・デバイス工学、物性工学、制御工学、コンピュータ情報工学、人工知能の各分野の教育と研究を行い、エネルギー、半導体、デバイス、情報技術など広い領域で革新を続ける電気電子情報工学に関して国内外で活躍することのできる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 電気電子情報工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 電気電子情報工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 電気電子情報工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 電気電子情報工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 電気電子情報工学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

電力工学

主な研究テーマ

社会生活上、各種形態のエネルギーが不可欠であるが、輸送・制御・取扱いの点で、電気エネルギーに優るものはない。環境・エネルギー関連領域においても必須の技術である。この分野は、電力発生、新しいエネルギー変換システム、輸送系統、電気機器、パワーエレクトロニクス、制御工学などに関する研究を主題とする。

「核融合プラズマの計測・診断技術の開発」
「ハイパワーレーザー応用技術の開発」
「レーザー駆動量子源の開発」
「レーザーアブレーション応用技術の開発」

電子材料・デバイス工学

主な研究テーマ

ダイオード、トランジスタから始まったエレクトロニクスは電子物性の進展に伴い、ハード・ソフトの両面にわたってめざましく進歩した。この分野に深く関連する電子材料、電子デバイス、電子回路、応用電子機器、マイクロ波工学、超音波工学、オプトエレクトロニクス、マイクロエレクトロニクスなどに関する研究を主題とする。

「電子光学系の色球面収差補正器の研究」
「微分代数法を用いた電子光学系の収差解析」

物性工学

主な研究テーマ

物質の構造を解明し、その性質を知ることが新時代における工学の第一歩であり、新素材の発見や“ものづくり”の基礎となる。この分野は量子力学、統計力学、熱力学、光物性、電気物性と電気材料論、プラズマ物性、レーザー物性などに関する基礎的なものを主題とする。

「高出力レーザーの発生とその応用に関する研究」
「レーザーカオスを用いたテラヘルツ波の発生」

制御工学

主な研究テーマ

雑音が含まれるシステムの入力と出力の観測値から、そのシステムのダイナミクスを表現する数式モデルを建てる方法について研究する。また、より正確で速くしかも環境の変化に頑健な制御を実現するためのアドバンスな制御方法について研究する。

「呼吸システムのモデリングとその人工呼吸への応用」
「産業プロセスにおける攪拌システム制御の研究」
「非接触給電システムを用いたゾーン加熱制御の研究」

コンピュータ情報工学

主な研究テーマ

身の回りのあらゆる所にコンピュータが使用されるコネクティッド社会実現に向け、ハードウェアとソフトウェアの両面から総合的な情報システム構築を目指した研究を行う。組込みシステムとそのモデリング技術、ヒューマンインタフェース、デジタル信号処理、アルゴリズムなどについて研究する。

「非接触インタフェースの研究」
「群ロボットの協調アルゴリズム」
「安心・安全な分散システムのためのアルゴリズム」

人工知能

主な研究テーマ

生成 AI の応用を通じて、診察支援、カウンセリング支援、観光地推薦、顧客サポートなどにおいて、精度向上と解釈性維持を同時に達成できるかを探求する。この研究では、実世界データとの組み合わせにより、解釈性を高め、多様な領域にわたる課題解決に役立てることを目指す。

「生成 AI を用いた診断補助ツールの研究」
「生成 AI を用いた対話型ケアボットの研究」
「生成 AI を用いた福井県の観光スポットのパーソナライズ提案」

宇宙情報科学コース

アドミッション・ポリシー

宇宙情報科学コースでは、宇宙環境科学、地球環境計測工学、衛星通信工学、情報処理工学の各分野の教育と研究を行い、修得した宇宙空間の計測技術を地球環境の保全および各種産業の発展のためにグローバルな視点で活用できる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 宇宙情報科学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 宇宙情報科学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 宇宙情報科学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 宇宙情報科学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 宇宙情報科学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

宇宙環境科学

人類の重要な活動の場となっている地球近傍の宇宙空間の環境について、プラズマ物理学の観点から教育・研究を行う。最初にプラズマ物理学の基礎を習得し、その基礎に基づいて、太陽および惑星間空間の性質、太陽と惑星の電磁気学的な関係についての研究を行う。

主な研究テーマ

「電波干渉計を用いた木星オーロラ電波の研究」
 「低コストな木星オーロラ電波観測システムの開発」
 「銀河・銀河系の観測的研究」

地球環境計測工学

地球環境問題の解決のためには、地球環境を正確に計測することが必要である。そのための重要な手段が人工衛星による環境計測である。あわらキャンパスに設置されている衛星データ受信システムを用いて得られた衛星画像データから、地球環境に関する情報を抽出する手法について研究する。

主な研究テーマ

「衛星リモートセンシングの農林水産業への応用に関する研究」
 「衛星画像を用いた環境モニタリングに関する研究」

衛星通信工学

人工衛星を日常的に利用する時代に入り、産業界からも衛星通信技術を習得した学生への期待が大きい。あわらキャンパスに設置されている衛星データ受信システムを用いて、衛星追尾技術、衛星通信技術、データ復調・復号技術、データ処理技術等に関する教育・研究を実施する。

主な研究テーマ

「あわらキャンパス衛星通信システムを用いたスマートな衛星運用に関する研究」
 「ソフトウェアによる新しい送受信システムの開発」
 「あわらキャンパスアンテナ群の受信システムの研究開発」
 「電波干渉計の開発およびフェーズドアレイシステムの研究開発」

情報処理工学

宇宙および地球環境の計測に必要なデータ処理のアルゴリズムについて学ぶとともに、計算機を用いたデータ処理に用いられる解析方法の原理および実際のプログラミングへの応用について理解した上で、電波天文データ、衛星データあるいは地上観測装置により得られたデータから必要な情報を抽出する手法について研究する。

主な研究テーマ

「衛星画像データ処理による土地利用分類の手法に関する研究」
 「放射伝達モデルに基づく夜間屋外照明の夜空の明るさに対する影響に関する研究」
 「天文アーカイブデータと機械学習を用いた銀河研究」
 「異常検知システムの研究開発」

機械工学コース

アドミッション・ポリシー

機械工学コースでは、材料工学、振動工学、流体工学、熱工学、機械システム工学の各分野の教育と研究を行い、我が国が得意とする「ものづくり」をはじめ、あらゆる産業に関わりをもつ機械工学に関して国内外で活躍することのできる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 機械工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 機械工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 機械工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 機械工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 機械工学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

材料工学	主な研究テーマ
<p>金属、非金属材料の熱処理や表面処理などによる高強度・高機能化と、新しい材料の創製、評価を行うとともに、各種材料を製品に用いるために必要な技術開発に関する研究を行う。</p>	<p>「エネルギーリサイクル用高性能熱電変換材料の開発」 「化学的作用による砥粒加工の高性能化」 「その場TEMによるナノ炭素材料の構造と特性の解明」</p>
振動工学	主な研究テーマ
<p>機械システムに内在する複雑な振動および接触問題などについて、エッセンシャルモデルを構築し、それを力学系理論あるいは有限要素法を用いて動力学解析することにより物理的メカニズムを解明する研究を行う。</p>	<p>「内部流による弾性送水管の非線形横振動」 「剛体架線とパンタグラフの衝突振動」 「管内脈動流に起因した弾性送水管曲管部の面外振動」</p>
流体工学	主な研究テーマ
<p>流体の複雑な挙動や圧縮性流体における波動現象を解析し、粘性や熱伝導性による散逸効果に起因する熱エネルギーと音響エネルギーの相互変換を応用した新しい熱機関や冷凍機に関する研究を行う。</p>	<p>「境界層理論に基づく非線形波動現象の解明」 「共鳴器列の分散効果による衝撃波の抑制」 「高次振動モードの抑制による熱音響自励振動の増幅」</p>
熱工学	主な研究テーマ
<p>熱流体における伝熱現象、作動流体の特性によるサイクル評価、燃焼制御、噴霧燃焼特性、排ガス成分と濃度に注目した低減技術開発・環境への影響評価など熱機関関係の新技術開発に必要な研究を行う。</p>	<p>「生物資源由来燃料を用いたディーゼルエンジンの排ガス浄化」 「スターリングエンジンの性能向上」 「自動車排ガスによる環境影響評価に関する研究」</p>
機械システム工学	主な研究テーマ
<p>機械の基盤技術と制御・計測・ソフトウェア技術を融合し、高性能・高信頼性な機器およびシステムの開発研究を行う。</p>	<p>「RF-IDを応用した内燃機関の計測」 「フレイル型草刈システムの消費電力低減システムの構築」 「環状らせんクローラ機構を用いた月面掘削ロボットの開発」</p>

環境生命化学コース

アドミッション・ポリシー

環境生命化学コースでは、応用化学、環境科学、材料科学、応用生物学、生命科学、生体工学の各分野の教育と研究を行い、資源・エネルギー・地球環境・食料問題など人類が直面している重要課題の解決や持続可能な循環型社会の構築に向けて、グローバルな視点で貢献できる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 環境生命化学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 環境生命化学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 環境生命化学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 環境生命化学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 環境生命化学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

応用化学	主な研究テーマ
<p>新しい物質・材料の開発は、環境・エネルギー問題の解決に寄与するのみならず技術革新の基盤となる。パイ電子系分子の創製とデバイスへの応用および機能性高分子材料の創製と特性評価など有機・高分子機能材料の開発と応用に関する研究を行う。</p>	<p>「有機系太陽電池の開発」 「次世代有機EL素子の開発」 「外部刺激に応答する機能性分子の開発と応用」 「機能性物質の磁場配向に関する研究」</p>
環境科学	主な研究テーマ
<p>有害物質による環境汚染や地球温暖化など地球環境問題が深刻化しており、その解決は最重要課題の一つである。環境分析の基礎と応用および環境汚染物質の無害化やリサイクルに関する研究を行う。</p>	<p>「磁気分離によるプラスチックの分別」 「有害重金属の分離除去法及び高度分析法の開発」 「環境汚染物質のレーザー光化学」 「雨水活用と水循環」</p>
材料科学	主な研究テーマ
<p>資源の有効利用は、持続型社会の構築のために不可欠である。天然高分子、合成高分子および両者の複合化による環境適合性材料の開発と応用に関する研究を行う。</p>	<p>「ゲルのレオロジー特性の評価と制御」 「ゲルの階層構造制御とクオリティコントロール」 「セルロースナノ結晶を用いた新機能性材料の開発」</p>
応用生物学	主な研究テーマ
<p>人間生活と自然が調和した持続可能で豊かな社会の実現が求められている。水圏生物の集団構造および環境指標生物の進化と保全に関する研究を行う。</p>	<p>「微生物バイオマス生産へのクロロフィル光毒性の応用」 「非生物学的環境下の作物の応答及び耐性機構の解明」 「カビ毒産生菌の分布と動態解明」</p>
生命科学	主な研究テーマ
<p>生命現象は、分子レベルで理解する必要がある。生体および関連物質を分子レベル、遺伝子レベルで解析し、その構造と機能の解明に関する研究を行う。</p>	<p>「作物における環境応答機構の分子生物学的解明」 「糸状菌の二次代謝制御の解明」 「盗葉緑体現象とオルガネラ進化の研究」 「クロロフィルの代謝メカニズムの解明」 「加工等による食品成分の変化や挙動の解明」</p>
生体工学	主な研究テーマ
<p>食の安全、健康、医療への人々の関心が高まっている。健康維持・増進、医療用材料機器の開発などに関する研究を行う。</p>	<p>「磁場による細胞の配列」 「生体模倣的な再生組織の構築と食品科学への応用」 「食品に含まれる機能性成分の挙動」</p>

原子力技術応用工学コース

アドミッション・ポリシー

原子力技術応用工学コースでは、原子力工学、原子力発電工学、放射線応用工学の各分野の教育と研究を行い、修得した原子力発電技術あるいは放射線応用技術をエネルギーの安定供給や各種産業の発展のためにグローバルな視点で活用できる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 原子力技術応用工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 原子力技術応用工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 将来、高度な専門性と倫理観を必要とされる職業を担い、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 原子力技術応用工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 原子力技術応用工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 原子力技術応用工学分野の技術者・研究者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

原子力工学

原子力は巨大技術であるが、その根幹をなすものは安全・安心に関する研究である。原子力の安全・安心に関する研究として原子力地域安全、廃棄物処理研究および原子力プラント廃止措置技術等の開発を進める。

主な研究テーマ

「原子力安全に関する研究」
「放射線・放射能測定技術に関する研究」
「原子力プラント廃止措置技術開発」
「廃棄物処理に関する研究」

原子力発電工学

原子力発電を安全に行い、国民に安全・安心を提供する技術の研究開発を行う。具体的には高経年化およびその保全に関する研究、プラント計装・診断・保守に関する研究等を進める。

主な研究テーマ

「原子力発電所保全に関する研究」
「プラント計装・診断・保守システムの研究」
「液体金属の原子力利用に関する研究」
「原子炉冷却水中におけるクラッドの除去・低減に関する研究」

放射線応用工学

原子力を特徴づけるものに放射線があり、この放射線をいかに安全に管理するかが原子力の安全に直結する。また、この放射線は、医学のみならず、工学・農学などの幅広い分野で利用されている。この分野では、加速器、放射線影響、放射線防護、放射線応用等の研究を行う。

主な研究テーマ

「加速器を用いたプラズマの研究」
「医療用などの放射線可視化技術の研究」
「放射性物質の分離、捕集技術に関する研究」
「放射線防護技術の研究」
「環境（土壌・水）中の放射性物質の浄化に関する研究」
「耐放射線性材料の研究開発」

土木工学コース

アドミッション・ポリシー

土木工学コースでは、土木計画学、水工学、環境工学、地盤工学、構造工学、防災工学の各分野の教育と研究を行い、市民生活の安全安心を根底から支える社会のシステムおよび施設の計画・設計・構築・維持・管理に関して国内外で活躍することのできる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 土木工学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 土木工学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 土木工学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 土木工学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 土木工学の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

土木計画学

都市論から全国総合開発計画や大都市圏整備計画、都市計画等といった実際の計画手法、およびパブリックインボルブメント（PI）・住民参加、合意形成（コンセンサス）に関する計画科学分野の基礎を修得するとともに、現行の国土利用計画法や都市計画法、景観法などの制度・事業の理解を深め、その応用的な研究を行う。

主な研究テーマ

「過度に自動車に依存した交通環境の改善に向けた研究」
「地方都市における地域力向上の可能性に関する研究」

環境工学

水処理学、廃棄物処理学、地域・都市計画学などの基礎と応用に関する研究や、都市や地域の環境保全を含めた広義の都市デザイン学的研究を行う。また、地球温暖化問題に対する環境工学的視野からの研究も行う。

主な研究テーマ

「廃棄物の処理とリサイクル」
「身近なビオトープ再生手法」

地盤工学

土木構造物の基礎の安定、施工に関係の深い地質工学、土質工学などの基礎と応用に関する研究、地盤特性を考慮した土木構造物の地震被害予測の研究を行う。

主な研究テーマ

「巨大地震時における土木構造物の動的挙動に関する研究」
「地盤増幅特性による構造物被害への影響評価」
「断層変位などの地盤変状を受ける抗基礎設計法の開発」

構造工学

土木構造物の構造解析法、ならびに地震時の挙動解析に関する研究、また構造物の劣化予測と最適補修設計計画に関する研究を行う。また、津波と構造との関係を明らかにする複合分野の研究も行う。

主な研究テーマ

「最適意志決定法に関する研究」
「橋梁構造物の最適補修時期の決定法」
「構造物の地震応答低減基礎の開発」

防災工学

地震、津波、水害、土砂災害などの自然災害による被害を防止・軽減するための方法論に関する研究を行う。また、安全なまちづくりのための防災計画、避難計画など、ハードとソフトの両面から研究を行う。

主な研究テーマ

「地震ハザード評価に関する研究」
「都市防災や防災計画、避難計画に関する研究」
「ニューノーマル時代の水災害に関する研究」

建築学コース

アドミッション・ポリシー

建築学コースでは、建築論・計画・設計、伝統木造建築、建築構造工学、建築環境・設備の各分野の教育と研究を行い、建築と都市・地域社会の調和を図り、快適な都市・居住空間の実現に向けて国内外で貢献することのできる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 建築学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 建築学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識および技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 建築学コースの教育研究内容に高い関心をもち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 建築学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 建築学の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

建築論・計画・設計

主な研究テーマ

建築計画系の理論的分野で、建築計画学に関する研究、都市計画・地域計画に関する研究、建築論・意匠論に関する研究を行う。

「建築論の京都学派に関する研究」
「戦後福井の建築思潮史に関する研究」
「北陸地域の伝統的な建築意匠に関する研究」
「建築作品の設計プロセスに関する研究」
「建築設計手法に関する研究」
「現代の社会問題に対応する建築設計コンセプトの研究」

伝統木造建築

主な研究テーマ

日本の伝統的木造建築の計画・構法・意匠・生産に関する歴史・意匠の研究、日本建築の精神を継承した新たな木造建築の設計、および歴史的な建築や社会環境の保存・再生に関わる研究などを行う。

「日本の歴史的建築に関する研究」
「日本の町並み・歴史的景観の研究および保存・再生・活用に関する研究」

建築構造工学

主な研究テーマ

建築物の自然災害に関する研究、建築構造に関する研究、鉄筋コンクリート構造に関わる諸技術と設計法に関する研究などを行う。

「建築物の耐震設計法の研究」
「鉄筋コンクリートの力学的挙動に関する研究」

建築環境・設備

主な研究テーマ

建築環境工学・設備工学の分野で、特に太陽光発電やパッシブソーラーなどの自然エネルギー利用技術や給排水・衛生設備の最適設計手法に関する研究などを行う。

「カーボンニュートラルに向けた環境配慮手法に関する研究」
「集合住宅における最適な給排水設備設計手法に関する研究」

デザイン学コース

アドミッション・ポリシー

デザイン学コースでは、生活創造科学、生産・環境デザイン学、情報・伝達デザイン学の各分野の実践的な教育および研究を行い、生活、技術、文化、芸術などに対する理解の上に、豊かな生活環境を生み出すための魅力的な提案とその実現に貢献できる高度な専門性を備えた人材を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. デザイン学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. デザイン学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. デザイン学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. デザイン学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. デザイン学分野の高度な専門性を身につけたスペシャリストとしての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

生活創造科学

デザイン学の理論的・基礎的分野であり、デザイン論、デザイン史、デザイン文化計画、デザイン教育などに関する研究と実践的なデザイン活動を行う。

主な研究テーマ

「近現代デザイナーの作品コンセプトの研究」
「環境問題のデザイン的解決に関する史的研究」
「デザインの視点を生かした中山間地域の活性化計画」
「初学者に対するグラフィックデザイン教育の手法に関する研究」

生産・環境デザイン学

都市デザイン、住環境デザイン、インテリアデザイン、プロダクトデザインなどの領域における基礎理論研究、および作家・作品研究や実践的なデザイン手法の研究、それらを応用した制作活動を行う。

主な研究テーマ

「建築の外観デザインにおける諸要素の構成手法に関する研究」
「人間の行為や心理的側面からみた空間デザインに関する研究」
「素材から発想するプロダクトの研究と提案」
「既存ストックを活かした都市デザインに関する研究」

情報・伝達デザイン学

グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、情報デザイン、Webデザイン、映像デザインなどの領域における基礎理論研究、および作家・作品研究や実践的なデザイン手法の研究、それらを応用した制作活動を行う。

主な研究テーマ

「メディアコンテンツにおける視覚情報伝達」
「都市公共空間における景観情報と視覚認識に関する研究」
「各種印刷技術を応用したヴィジュアル表現手法に関する研究」
「地域資源の映像化手法の研究」

経営情報学コース

アドミッション・ポリシー

経営情報学コースでは、経営学、政策科学、情報科学、並びにデータサイエンスの各分野の教育と研究を行い、今日の高度情報社会においてグローバルな視点で活躍することのできる豊かな学識と高い倫理観および社会の要請に対応可能な創造力を兼ね備えた高度専門技術者・研究者を育成する。そのため、本コースでは次のような人を求めている。

《博士前期課程》

1. 経営情報学コースの教育研究内容に興味をもって積極的に勉学・研究に励むことのできる人
2. 経営情報学分野における課題の発見と解決に必要な基礎知識・技術を備えている人
3. 高度な専門性が求められる職業を担うための能力と倫理観を身につけ、地域社会あるいは国際社会で活躍したいという意欲をもっている人

《博士後期課程》

1. 経営情報学コースの教育研究内容に高い関心を持ち、主体的に勉学・研究に取り組むことのできる人
2. 経営情報学分野の課題を自ら発見し、その解決に向けてこれまでに修得した知識と技術を応用できる能力を備えている人
3. 経営情報学分野の研究者・技術者としての責任を自覚し、広い視野を備えた指導的な立場で国際的に活躍したいという意欲をもっている人

専門分野の概要

経営学

急激に変化する環境の中で、企業が生き残るためのカギは、高度なICTを活用した企業内・外の情報に基づく経営戦略の立案である。「経営学」分野では、情報利活用のためのICTスキルを培い、マーケティング、企業会計、オペレーションズリサーチ（OR）などの手法を用いて、経営戦略の立案、および企業やその利害関係者が抱える諸問題の解決策について研究する。

主な研究テーマ

「POS データに基づくマイクロマーケットの推定」
「財務指標を用いた企業間比較分析」
「企業のディスクロージャーに関する研究」
「仕事をするごとの意味と企業の在り方についての研究」
「ご当地キャラが地域活性化に及ぼす効果の研究」
「キャラクターの体験価値と活用効果の関係解明」
「アンケート項目の再設計に関する研究」

政策科学

複雑化し、不確実性の高い現代社会では、問題の本質を的確に捉え、最適な状況を作り出すための政策を立案できる人材が必要とされている。「政策科学」分野では、経済学、統計学などの手法を用いて、政策がもたらす効果や地域社会における課題の解決法について研究する。

主な研究テーマ

「経済の発展と人口の変動に関する研究」
「再生可能エネルギーによる地域経済活性化効果の研究」
「株式市場の価格調整に関する実証分析」
「地方都市における公共交通体系と人口分布に関する分析」
「子どもや高齢者の健康体力維持増進のための方策と効果に関する研究」

情報科学

情報化社会を迎え、情報は我々の社会を構成する最も重要な要素となっている。「情報科学」分野では、情報をメディア・ネットワーク・人工知能・医療・教育など様々な視点から観察して普遍的原理の究明に取り組むとともに、先端的应用技術の創出を図る。

主な研究テーマ

「知能メディア工学：AI に基づくマルチメディアの生成と認識」
「情報共有システム上の非言語文脈を利用した自然言語処理の研究」
「医療・福祉分野への応用に向けた画像情報処理技術の開発」
「初学者向けプログラミング教育のためのシステム開発に関する研究」
「IoT通信の収容能力及び性能向上を目指したモバイルネットワークの研究」
「神経発達症の児童・生徒のインターネット利用」
「生体情報や動作分析を活用したスポーツ科学領域の研究」
「生化学情報を活用した公衆衛生学、健康科学領域の研究」

出願書類

令和7年度 福井工業大学大学院工学研究科

博士前期課程 入学志願票
(推薦選抜)

※の欄は記入しないでください。

			受験番号	※	
該当箇所に <input checked="" type="checkbox"/> を記入	試験区分	志望専攻	志望コース		写真貼付欄 1. 上半身脱帽 2. 最近3ヶ月以内に撮影したもの 3. 縦4cm×横3cm 4. 写真裏面に氏名を明記して全面糊付
	<input type="checkbox"/> I 期 <input type="checkbox"/> II 期	<input type="checkbox"/> 応用理工学専攻 <input type="checkbox"/> 社会システム学専攻	<input type="checkbox"/> 電気電子情報工学コース <input type="checkbox"/> 宇宙情報科学コース <input type="checkbox"/> 機械工学コース <input type="checkbox"/> 環境生命化学コース <input type="checkbox"/> 原子力技術応用工学コース <input type="checkbox"/> 土木工学コース <input type="checkbox"/> 建築学コース <input type="checkbox"/> デザイン学コース <input type="checkbox"/> 経営情報学コース		
フリガナ					性別
氏名			Ⓔ		
生年月日	昭和・平成 年(西暦 年) 月 日 満 歳(令和 年 月現在)				
出身大学・学 科	福井工業大学 学部 学科 (西暦) 年 卒業見込				
現住所	〒 携帯電話 () -				
保護者連絡先	氏名			続柄	
	住所	〒 電話 () -			
学 歴 ※高校卒業から記入すること	年 月 学校(都道府県)卒業				
	年 月				
	年 月				
	年 月				
	年 月				

〈個人情報の取り扱い〉 入学試験要項表紙裏の個人情報の取り扱いについての項をよく読み、同意の上、出願してください。

博士前期課程 推薦選抜 受験票

試験区分 <input checked="" type="checkbox"/> を記入	<input type="checkbox"/> I 期 <input type="checkbox"/> II 期
志望専攻 <input checked="" type="checkbox"/> を記入	<input type="checkbox"/> 応用理工学専攻 <input type="checkbox"/> 社会システム学専攻
志望コース	コース
受験番号	※
氏名	
試験日	I 期 令和6年7月6日(土)
	II 期 令和7年1月25日(土)
試験時間 会場	試験当日、時 分までに福井工業大学 教室にお越しください。

注意

- ※印欄は記入しないでください。
 - 本票は試験当日に必ず携帯してください。
- 本票にて検定料領収書といたします。

検定料受付印
※

博士前期課程 推薦選抜 副票(出納用)

試験区分 <input checked="" type="checkbox"/> を記入	<input type="checkbox"/> I 期 <input type="checkbox"/> II 期
志望専攻 <input checked="" type="checkbox"/> を記入	<input type="checkbox"/> 応用理工学専攻 <input type="checkbox"/> 社会システム学専攻
志望コース	コース
氏名	

切りはなさないでください

検定料

¥25,000 -

検定料受付印
※

推薦書

受験番号

福井工業大学

学長 掛下 知行 殿

令和 年 月 日

福井工業大学

学部

学科

主任教授

印

次の学生を本学大学院工学研究科 博士前期課程 推薦選抜 I期・II期 志願者として
推薦いたします。

フリガナ		生年月日	(西暦)	年	月	日
学生氏名						
学科名	学科 () コース					
GPA	(参考：学科席次 /)					
卒業研究 テーマ						
卒業論文 指導教員氏名						
志望する 専攻・コース	専攻				コース	
大学院博士前期 課程指導教員 氏名(予定)						
学業・人物 についての 所見						
担当教員						印

令和7年度 福井工業大学大学院工学研究科

博士後期課程 入学志願票
(推薦選抜)

※の欄は記入しないでください。

		受験番号		※							
		志望専攻		志望コース		写真貼付欄					
該当箇所に ☑を記入	<input type="checkbox"/> 応用理工学専攻	<input type="checkbox"/> 電気電子情報工学コース	<input type="checkbox"/> 宇宙情報科学コース	1. 上半身脱帽 2. 最近3ヶ月以内に 撮影したもの 3. 縦4cm×横3cm 4. 写真裏面に氏名 を明記して全面 糊付							
	<input type="checkbox"/> 社会システム学専攻	<input type="checkbox"/> 機械工学コース	<input type="checkbox"/> 環境生命化学コース		<input type="checkbox"/> 原子力技術応用工学コース						
フリガナ				性別		男 ・ 女					
氏名				Ⓔ							
生年月日	昭和・平成	年(西暦)	年	月	日	満	歳(令和)	年	月	現在)	
出身大学	国立 公立 私立	大学	学部	科	(西暦)	年	卒業				
	福井工業大学 大学院 博士前期課程		専攻	コース	(西暦)	年	修了見込				
現住所	〒										
		携帯電話 ()			-						
保護者 連絡先	氏名						続柄				
	住所	〒									
		電話 ()			-						
学歴 ※高校卒業 から記入 すること	年	月	学校(都道 府県)	卒業					
	年	月									
	年	月									
	年	月									
	年	月									
職歴	年	月									
	年	月									
主な職務内容											

〈個人情報の取り扱い〉 入学試験要項表紙裏の個人情報の取り扱いについての項をよく読み、同意の上、出願してください。

博士後期課程 推薦選抜 受験票

試験区分	推薦選抜
志望専攻 <input checked="" type="checkbox"/> を記入	<input type="checkbox"/> 応用理工学専攻 <input type="checkbox"/> 社会システム学専攻
志望コース	コース
受験番号	※
氏名	
試験日	令和7年1月25日(土)
試験時間 会場	試験当日、時 分までに福井工業大学 教室にお越しください。

注意

- ※印欄は記入しないでください。
 - 本票は試験当日に必ず携帯してください。
- 本票にて検定料領収書といたします。

検定料受付印
※

博士後期課程 推薦選抜 副票(出納用)

試験区分	推薦選抜
志望専攻 <input checked="" type="checkbox"/> を記入	<input type="checkbox"/> 応用理工学専攻 <input type="checkbox"/> 社会システム学専攻
志望コース	コース
氏名	

切りはなさないでください

検定料

¥25,000 —

検定料受付印
※

推薦書

福井工業大学

学長 掛下 知行 殿

令和 年 月 日

福井工業大学大学院工学研究科

専攻

主任教授

印

次の学生を本学大学院工学研究科 博士後期課程 推薦選抜志願者として推薦いたします。

フリガナ		生年月日	(西暦)	年	月	日
学生氏名						
専攻・コース名	専攻		コース			
修士論文 テーマ						
博士前期課程 指導教員氏名						
志望する 専攻・コース	専攻		コース			
大学院博士後期 課程指導教員 氏名(予定)						
推薦理由						
コース主任						印
指導教員						印



福井工業大学
Fukui University of Technology

〒910-8505 福井県福井市学園3丁目6番1号
TEL.0776-29-7871(直) FAX.0776-29-7866
E-mail kouhou@fukui-ut.ac.jp

[お問い合わせ先] 福井工業大学 入学センター 入試広報課



0120-291-780

<https://www.fukui-ut.ac.jp/>



福井工業大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、「本評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。